証券コード：7963

2022年12月期
第2四半期決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

興研株式会社

Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

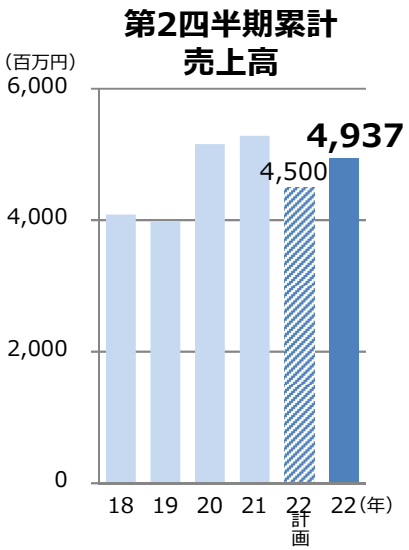
連結損益の状況

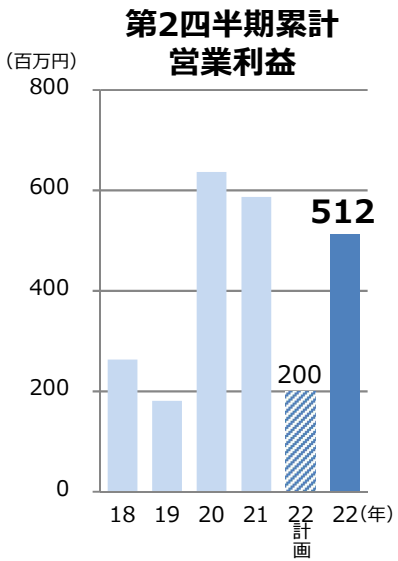
クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
興研株式会社

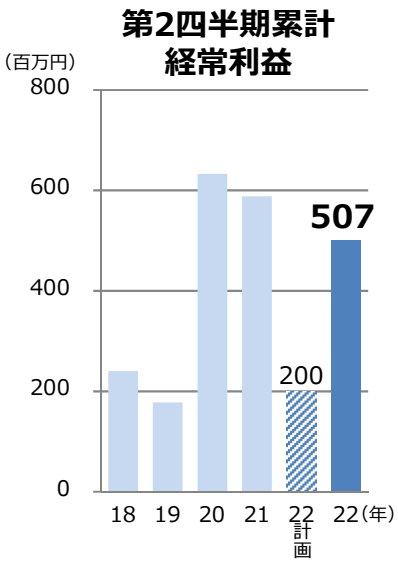
○コロナ収束による対策用マスクの需要減を一定数織り込み、減収・減益の計画でスタートしましたが、第6波の感染拡大により、売上高・利益ともに期初計画を上回りました。

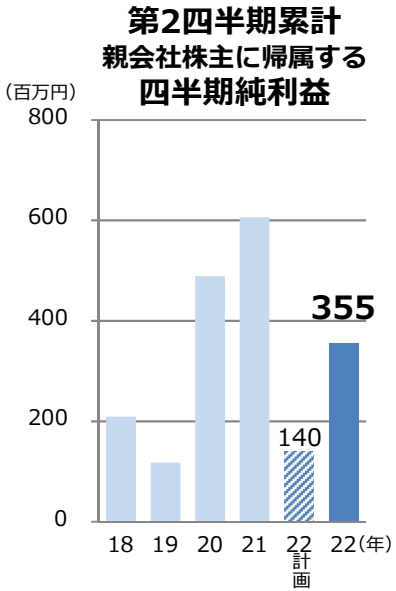
（単位：百万円）

	2021年12月期 第2四半期		2022年12月期 第2四半期		前年同期比	
	実績	売上高比	実績	売上高比	増減額	増減率
売上高	5,285	100.0%	**4,937**	**100.0%**	△348	△6.6%
売上原価	2,810	53.2%	**2,582**	**52.3%**	△227	△8.1%
売上総利益	2,475	46.8%	**2,354**	**47.7%**	△120	△4.9%
販売費・一般管理費	1,887	35.7%	**1,842**	**37.3%**	△44	△2.4%
営業利益	587	11.1%	**512**	**10.4%**	△75	△12.8%
経常利益	588	11.1%	**507**	**10.3%**	△81	△13.8%
親会社株主に帰属する四半期純利益	606	11.5%	**355**	**7.2%**	△251	△41.4%
１株当たり四半期純利益	121円25銭	–	**71円36銭**	**–**	–	–



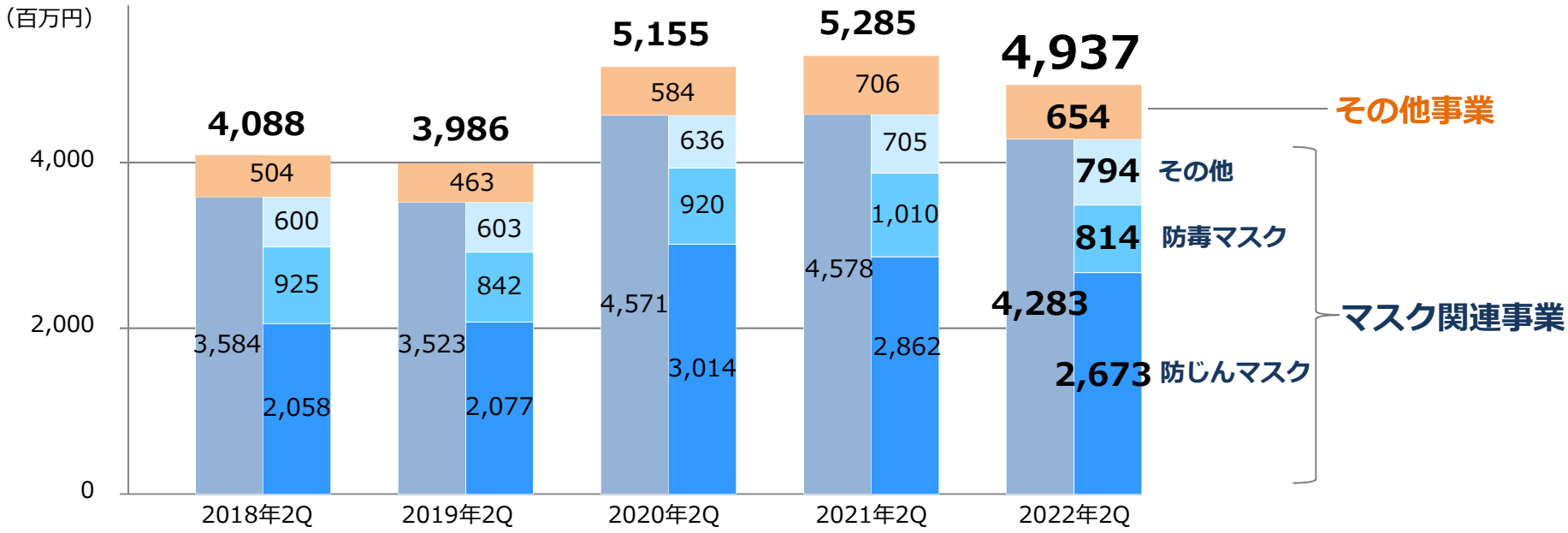






Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

連結セグメント別の業績



マスク関連事業	・感染対策用マスクについては、第6波の感染拡大を受けて再び増産体制に切り替え、急増した医療機関からの注文に柔軟に対応しました。その結果、売上高は納入ピークであった前年同四半期実績までには至りませんでしたが、期初計画を上回りました。 ・産業用の防じんマスク・防毒マスクの需要は、前年度後半からの回復基調が続いています。特に溶接作業においては、法規制による管理強化が実施されたこともあり、安全性が高く呼吸負荷が少ない電動ファン付き呼吸用保護具の販売が好調でした。 ・自衛隊装備品「防護マスク18式」の納入は通常第4四半期に行われますが、前年度は第1四半期にも納入されたため、当第2四半期累計期間においては前年同四半期比減収となっております。

その他事業	・オープンクリーンシステム「KOACH」の大型機種「フロアーコーチ」は、その清浄度の高さ、低コスト、低消費電力という優位性に加え、圧倒的な設置期間の短さ等の既存のクリーンルームにはない特長の認知が進み始めて、期初計画に近い受注、引合い状況を示していますが、納入・施工の時期が下期に偏ったため、その他事業全体としての売上高は前年同四半期実績に対し減収でした。

Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

連結財務の状況（要約貸借対照表）

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
興研株式会社

（単位：百万円）

	2021年12月期		2022年12月期	対前期末差異	主な増減要因
	第2四半期末	通期末	第2四半期末		
資産の部					
流動資産	7,874	7,988	**8,883**	**+895**	現金及び現金の増加：+1,009 受取手形及び売掛金：△542
固定資産	11,912	11,611	**11,395**	**△216**	建物及び構築物（純額）の減少：△71 繰延税金資産の減少：△51
資産合計	19,786	19,600	**20,279**	**+679**	
負債の部					
流動負債	4,034	4,108	**4,074**	**△33**	1年内返済予定の長期借入金の増加：+189 賞与引当金・役員賞与引当金の減少：△160
固定負債	4,847	4,378	**4,938**	**+559**	長期借入金の増加：+607
負債合計	8,881	8,487	**9,012**	**+525**	
純資産の部					
純資産合計	10,905	11,113	**11,266**	**+153**	利益剰余金の増加：+171
負債純資産合計	19,786	19,600	**20,279**	**+679**	

Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

連結財務の状況（要約キャッシュ・フロー計算書）

クリーン、ヘルス、セーフティで社会に
興研株式会社

（単位：百万円）

	2021年12月期 第2四半期	2022年12月期 第2四半期	増減	主な内訳
営業活動によるC・F	160	**614**	**+454**	税金等調整前四半期純利益：507 減価償却費：305 賞与引当金の減少：△141 売上債権の減少：532 棚卸資産の増加：△377 仕入債務の増加：144 法人税等の支払額：△131
投資活動によるC・F	141	**△55**	**△196**	有形固定資産の取得による支出：△45
財務活動によるC・F	481	**412**	**△68**	長期借入れによる収入：1,400 長期借入金の返済による支出：△603 自己株式の取得による支出：△173 配当金の支払額：△176
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	**37**	**+20**	
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	799	**1,009**	**+210**	
現金及び現金同等物の期首残高	1,564	**2,187**	**+622**	
現金及び現金同等物の期末残高	2,364	**3,197**	**+832**	

Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

事業トピックス

1. 溶接作業に必要となるフィットテスト

改正特定化学物質障害予防規則等に基づき金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場では、(1)2021年4月から空気中の溶接ヒューム濃度測定が開始、(2)2022年4月からは、この測定結果を基に、溶接ヒューム（マンガン）濃度に応じた防護性能のマスクの選択、使用が始まりました。さらに、(3)2023年4月からは、面体形の呼吸用保護具を使用する作業者については、１年以内ごとに１回フィットテストを実施することが義務付けられます。

●フィットテストとは

呼吸用保護具を基準に従って選択し、使用する上でその期待される防護性能を得るためには、顔への密着性（フィット）が極めて重要です。

このため作業者の方それぞれが使用する「呼吸用保護具が適切に装着されていること」を確認することを目的としてフィットテストを行います。

●２種類のフィットテスト

①定量的フィットテストとは、呼吸用保護具の接顔部からの漏れを装置で測定したフィットファクタの値により、フィットが十分であるかどうかを評価する方法で、半面形の呼吸用保護具と全面形の呼吸用保護具に対して実施できます。

②定性的フィットテストとは、試験物質を検知する被験者の感覚反応によりフィットが妥当であるかどうかを評価する方法で、半面形の呼吸用保護具に対して実施できます。

●動画等によるサポート

フィットテストを実践する前に、「実際にどう準備を進めれば良いか？」「機器の操作方法は？」といったご相談をいただくことがあるため、当社製マスクを用いたフィットテストに必要な機器の準備設定、実施方法、判定後の措置の一連の流れを説明した実践動画集を公開しました。

今後もフィットテストに関して様々な形でサポートを続けるとともに、高フィット性マスクの研究開発、普及に努めてまいります。

①定量的フィットテスト

②定性的フィットテスト

公開中の動画例

2. ウィズ／アフターコロナ時代を見据えた展開

コロナ禍は第6波に続き第7波が拡大するなど収まりを見せずに推移しています。当社は今後もN95マスク「ハイラック350型」の定着・シェア拡大及び感染患者の個人隔離が可能な「ハイラックうつさんぞ」の普及を図ります。またコロナ後も見据え、医療分野に特化した新製品「感染対策用高性能マスク」「感染対策用保護メガネ」を新たに上市し、市場拡大に努めております。

感染症患者専用マスク「ハイラックうつさんぞ」

感染対策用高性能マスク「1180MD型」

感染対策用保護メガネ「KE-01」

3. クリーン環境の課題を解決するフロアーコーチ

一般的なクリーンルームは、高性能エアフィルタで清浄化された空気を室内へ供給し、それを繰り返すことでクリーン環境を形成します。

この際、清浄度を高める方法として一般的にはフィルタの性能を上げたり、清浄化された空気が循環する回数（換気回数）を増やしたりしますが、この方法では、ファン出力の増強やファンの追加設置に伴う設備投資のイニシャルコストに加え、消費電力のランニングコストも膨大になります。

SDGs（持続可能な開発目標）やカーボンニュートラルに向けた取り組みが急速に進み、クリーンルームの消費電力削減の可能性に取り組む企業も増加しています。その中にあって「フロアーコーチ」は、世界最上級の清浄度クラスでありながら、消費電力を大幅に削減できるという、相反する特長を同時に実現できるため、クリーン環境の課題を根本的に解決できるクリーンデバイスとして注目を集めており、また圧倒的な設置期間の短さも受注を伸ばす大きな要因となっています。

●スーパークリーンルーム「フロアーコーチ」の導入メリット

①圧倒的に清浄度が高く、維持も楽
②建屋ではなく機器なのでコストが安い
③オープンなので使い勝手が良い
④消費電力が低い
⑤移動が可能で、拡張縮小もできる
⑥天井に重量物がなく地震に強い
⑦設置期間が圧倒的に短い

Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

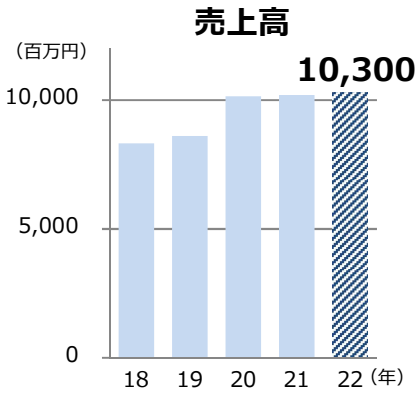
2022年12月期連結業績予想・配当予想

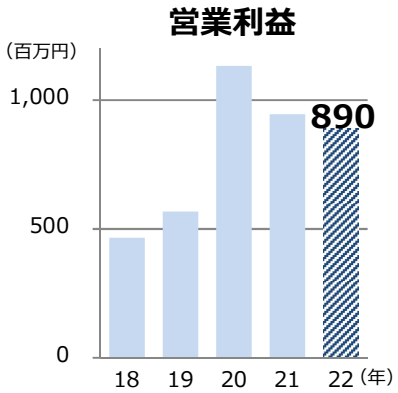
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策用マスクの需要増を主因として、2022年2月10日の決算発表時に公表した連結業績予想を2022年7月29日公表の「第2四半期（累計）連結業績予想及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」の通り修正いたしました。当業績予想数値は、第7波による感染拡大が下期後半には収束するとの前提及び発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後のコロナ禍の動向のほか、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

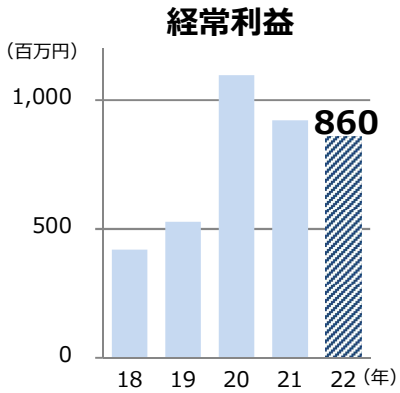
なお、今後の動向により当業績予想数値に対して修正が必要となった場合は、速やかに開示いたします。

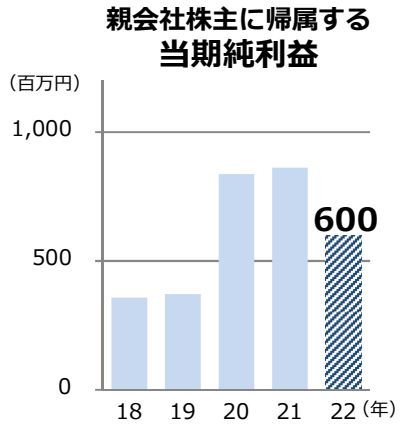
（単位：百万円）

	2019年12月期 実績	2020年12月期 実績	2021年12月期 実績	2022年12月期 予想
売上高	8,605	10,152	10,203	**10,300**
営業利益	567	1,133	945	**890**
経常利益	528	1,097	922	**860**
親会社株主に帰属に帰属する当期純利益	371	837	862	**600**
1株当たり当期純利益	74円21銭	167円34銭	172円27銭	**119円86銭**
1株当たり期末配当	25円00銭	45円00銭	35円00銭	**25円00銭**









Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在（「2022年12月期第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表日／2022年8月8日）入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

また、本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料の掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報やその誤りなど、本資料の利用によって生じた損害、障害等に関しましては、事由の如何を問わず当社は一切責任を負いませんので、ご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・ＩＲ室

TEL　03-5276-1932（直通）
FAX　03-5276-6530
E-ﾒｰﾙ　ir@koken-ltd.co.jp
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　https://www.koken-ltd.co.jp/

Copyright © KOKEN LTD. All rights reserved.